

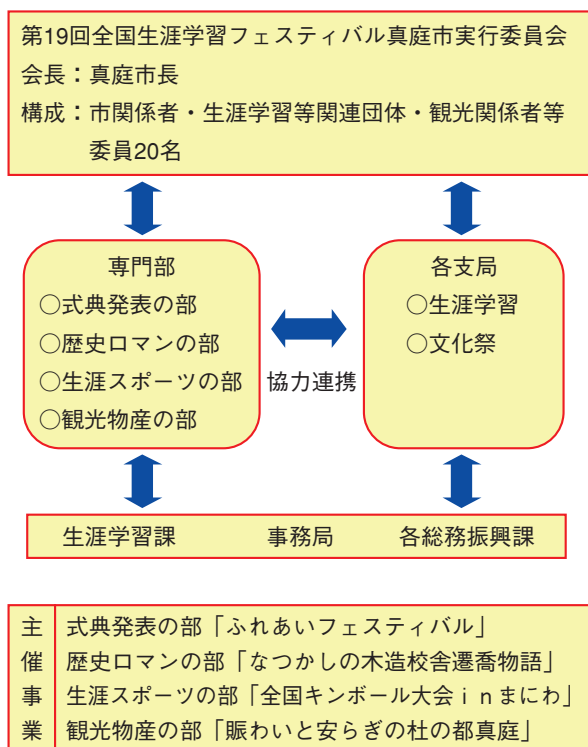
真庭市

1 推進体制（組織図）

(1) 平成18年7月20日に真庭市長を会長とする第19回全国生涯学習フェスティバル真庭市実行委員会（委員20名、以下「実行委員会」とする）を設置しました。

(2) 第1回実行委員会を受け、フェスティバルの企画・運営に関して必要な事項を検討するため、4つの専門部を実行委員会の下に設置しました。

【推進体制】



2 基本方針

平成19年11月に岡山県が主催する第19回全国生涯学習フェスティバルは、関連団体等と連携・協働し、岡山県らしさを発揮して、県民総参加のもと、県民がふるさとに愛着と誇りをもち、県民と地域社会が輝く「生涯学習☆おかやま」の実現をめざして開催されます。

真庭市としては、県の基本計画の趣旨を踏まえつつ、地域の特色を生かした生涯学習事業を自主的に、企画運営を進めます。また、11月は文化祭の時期であることから、各支部文化協会とタイアップして、文化祭も主催事業として行います。真庭市は、9つの町村が合併して誕生した市であり、それぞれの特色をピックアップしながら、融合できるところはしていき、生涯学習を進めています。その中で、主会場を勝山文化センター「勝山地区」

とし、そのほかに、旧遷喬尋常小学校「久世地区」と白梅総合体育館「落合地区」を拠点に開催します。

特に、旧遷喬尋常小学校は、築100周年記念を迎え、生涯学習への機運が盛り上がってきたことと重なり、きっかけづくりの一つとして実施します。また、生涯スポーツも盛んに行われていることから、市民のみなさんが気軽に楽しめるものにしていきます。そして、全国・近隣市町村から広く集客を図り活気のある大会にするように、各団体・学校等と連携し、参加の工夫をしていきます。

3 企画運営・事業展開

(1) 企画運営

開催日が11月2日～4日というちょうど文化祭の時期に重なるので文化協会への説明をたびたび行い、協力をまず得るところから行いました。その後、事業内容を実行委員会で確認し、関係機関・団体等と企画を練りながら専門部会を立ち上げ、協議を重ね進めてきました。

(2) 実施事業

- ① 主催事業（12事業）
- ② 協賛事業（56事業）

(3) 企画運営に関する取組

それぞれの専門部で、関係団体と連携をして事業の企画を行いました。

- ① 式典発表の部「ふれあいフェスティバル」
 - 開会行事の企画
 - ・オープニング・アトラクション出演者依頼
 - ・人権教育推進委員会の取組の人権作品募集及び展示の連携・入賞者表彰を開会行事の中で行う
 - 事業の企画
 - ・ステージ発表出演者の真庭市内中学校吹奏楽部へ依頼
 - ・ブース担当者との打ち合わせ
読み聞かせコーナーを担当する市内読み聞かせグループとの打合せ
体験コーナーを担当する講師との打合せ
 - 勝山文化協会との調整
- ② 歴史ロマンの部「なつかしの木造校舎遷喬物語」
 - 事業の企画
 - ・生涯学習推進協議会との調整
 - ・遷喬小学校100周年との調整
 - ・生涯学習講演会との調整
 - ・思い出の給食を栄養改善協議会へ委託
- ③ 生涯スポーツの部「全国キンボール大会」
 - 事業の企画

- ・真庭市体育指導委員会との協働
- ・岡山県キンボール連盟と共同開催依頼
- ・真庭市商工会青年部への協力依頼

④ 観光物産の部「賑わいと安らぎの杜の都真庭」

○事業の企画

観光及び物産品のPR・物産品の店頭販売
キーホルダーづくり・リースづくり

4 広報啓発

(1) 真庭市事業広報物の印刷・配布

- ① 印刷部数 ポスター100部、
チラシ（全体用）15,000部、チラシ（勝山会場用）8,000部
広告用チラシ 新聞購入者数
広報用ポケットティッシュ1,000個
- ② 配布先
 - ・市内 幼稚園、保育園、小・中学校、高校、市施設、関係機関等
 - ・市外 近隣市町村（高梁市・新庄村ほか）
福島県開催市町村（H20開催県）

(2) 真庭市事業用看板・のぼり旗の設置

- ① 懸垂幕 真庭市役所 勝山庁舎・久世庁舎・落合庁舎に設置
- ② 立て看板 勝山文化センター・旧遷喬尋常小学校・白梅総合体育館に設置
- ③ のぼり旗 真庭市事業実施会場に設置

(3) 告知放送等の利用

- ① 告知放送を利用して、定期的にPR
- ② KHKテレビ（ケーブルテレビ）による広報

(4) 市報、広報紙への情報掲載

- ① 真庭市報「広報まにわ」への特集記事掲載
- ② 県広報紙「教育時報」で掲載
- ③ 「みまさかの公民館」へ掲載
- ④ 真庭市地区公民館の冊子に情報掲載

(5) その他

- ① 200日前イベントとして、勝山駅前ポケットティッシュを配布して広報活動を行う
- ② 100日前イベントとして、久世のスーパー前でPR用うちわを配布して広報活動を行う
- ③ 小・中学校の運動会へももっちと一緒に出かけ、チラシを配布して広報活動を行う（8校）
- ④ 県作成チラシ・リーフレット・ポスターの配布
- ⑤ 各地域イベントへももっちと一緒に出かけ、チラシを配布して広報活動を行う（5地区）

5 成果と課題

(1) 成果

- ① 真庭市で生涯学習活動を実践してきた個人・団体の協力・協働により市民が楽しめる事業展開を図ることができた。
- ② 同じ目的を持って活動していた類似の読み聞かせの団体が、今回の大会で、横のつながりを持ち、深まった活動ができるようになった。また、読書祭りのような活動をしていきたいとの機運が高まり、次へのステップになった。
- ③ 市民団体の協力により、幅広い事業を展開することができ、幼児・園児、小学生、中学生、一般の参加者が、それぞれの場面で楽しむことができた。また、親子や家族で一緒に過ごす時間を得ることができた。
- ④ 普段あまり接することがなかったり、味わうことがなかったりする学校川柳・唱歌の合唱や学校給食を堪能することができた。また、国の重要文化財である「旧遷喬尋常小学校」の一つのイベントとして継続していく機運が高まった。
- ⑤ 全国から多数の参加があったキンボール大会を、キンボール愛好者が増えつつある真庭市で行えたことにより、岡山県で開催予定の平成22年度ジャパンオープンへのステップになった。
- ⑥ 真庭市のキャッチフレーズ「あそぼう まなぼう 仲よく元気で 幸せ真庭」の通り、今後の生涯学習への期待が深まった。

(2) 課題

- ① 岡山県内すべての市町村でイベントがあり、真庭市の中でも、それぞれの地域で事業を展開したので、参加したくてもできないという声があった。その点については、日時の設定やイベントへの参加対象を工夫したが、難しいものがあった。
- ② 高校生や20歳前後の参加が少なかった。世代を意識した学習機会の提供から考えると、青年期へのアプローチが今後必要であると思われる。
- ③ 大会に向け、広報活動を随時行ったが、知名度としては、国体ほどではなく、日頃からの、生涯学習へのアピールが大切であると感じた。

真庭市では「生涯学習基本計画」を策定し、生涯学習を「一人ひとりが生涯を通じてそれぞれの世代に応じた学習を自由に主体的に取り組む活動」と捉え、自分たち一人ひとりがその生涯学習を通じて自己を高めていくことが大切であると考えています。そこで、この大会を契機に、既存のものを踏まえつつ新たな生涯学習に取り組んでいきます。

美作市

1 推進体制

美作市は、第19回全国生涯学習フェスティバルの成功に向け、平成18年9月27日、美作市長を会長とし、市議会を始め、生涯学習に関係する機関、団体の代表者、観光協会や商工会、また青年会議所等の市内各種団体の代表者にお集まりいただき、第19回全国生涯学習フェスティバル“まなびピア岡山2007 in 美作”実行委員会（会長1名 副会長2名 委員43名）を発足しました。

主催事業をはじめ、参加事業等の取りまとめなど、企画・運営を円滑に進めるため、事務局を美作市教育委員会社会教育課内に設置しました。

主たる事業の立案及び提案は、実行委員会での意見を取りまとめながら社会教育課主導で行いましたが、市民の参加をより促進するため、実行委員会内に部会を設け、その中で具体的な事業の検討を進めるようにしました。



2 基本方針

美作市実行委員会では、事業全体を「“まなびピア岡山2007 in 美作”」の愛称で統一し、まなびピア岡山2007の開催における基本方針に添い、次の5項目を美作市の開催基本方針としました。

- (1) だれもが参加・交流・体験でき、学びを身近に感じることができるフェスティバルとする。
- (2) 市町村合併による新しいまちの「人づくり」「地域社会づくり」に寄与できるフェスティバルとする。
- (3) 岡山国体で培った「おもてなしの心」を引き継ぎ、官民協働のパートナーシップを発揮できるフェスティバルとする。
- (4) 開催の成果が継承されるフェスティバルとする。
- (5) 美作発学びのスタイルを全国に発信するフェスティバルとする。

3 事業の企画運営・事業展開

(1) 主催事業6事業について

“まなびピア岡山2007 in 美作”を開催するにあたり、基本方針を基に次のような視点を立て具体的な事業の検討に入りました。

- 市民が活躍し、市民が主役となれる事業の実施を通して、生涯学習振興を図るものとする。

- 美作市ならではの特徴ある事業を展開することで、市民が新市「美作」に誇りを持てる機会づくりとする。

- 全国フェスティバルという機会を生かし、質の高い学習の機会を提供する。

- 美作市を全国に向け積極的にPRできる事業を展開する。

これらを基本とし“まなびピア岡山2007 in 美作”実行委員会主催事業を以下のように計画・実施いたしました。あわせて、岡山県主会場で開催される「生涯学習見本市」と「地産地消テント村」への参加も決定・実施いたしました。

各事業の実施には、実行委員会内に設けた担当部会において、より具体的な詰めの作業をおこなうとともに、準備及び当日の運営にも組織をあげて、積極的に関わっていただきました。

①「“まなびピア岡山2007 in 美作” オープニングセレモニー」

日時：11月2日（金）18：30～21：00

会場：美作文化センター

内容：フェスティバル開催の前夜祭としての位置づけ

- “まなびピア岡山2007 in 美作”総合開会式
- 「第16回バレンタイン愛の美術展の表彰式」
- 市民による音楽活動に焦点を絞った市民音楽祭

②「美作市文化シンポジウム ～未来を担う子どもたちへ～」

日時：11月3日（土）10：00～12：00

会場：美作文化センター

内容：美作市にゆかりを持つ方々によるシンポジウム
シンポジウムの模様を集録し市内教育機関に配布
シンポジスト

- ・児童文学作家「あさのあつこ」氏
- ・岡山湯郷Belle監督「本田美登里」氏
- ・パラリンピック日本代表選手「新田佳浩」氏

③「美作市ゆかりの映画上映会」

日時：11月3日（土）13：30～17：00

会場：美作文化センター

内容：児童文学作家「あさのあつこ」氏（美作市在住）
原作「バッテリー」と映画監督「大谷健太郎」氏
（美作市出身）監督作品「NANA」を上映

④「みまさか子どもフェスティバル2007」

日時：11月3日（土）9：30～12：30

会場：みまさかアリーナ

内容：乳幼児から小学生を対象とし、“楽しみながら学ぼう”をテーマに事業を実施
朝ごはんレシピコンテストの表彰も実施
「速水けんたろう」氏のステージ開催

⑤「美作市生涯学習まつり」

日時：11月4日（日）10：00～15：30

会場：宮本武蔵顕彰武蔵武道館

内容：市内生涯学習活動グループの交流

体験教室の開催やパネル展示、ステージ発表
市内小・中学校、生涯学習団体など約200団体が参加

⑥「美作市まるごと学んでツアー」

日時：11月4日(日) 10:00～17:00

会場：美作市内各所

内容：日頃公開されていない市内の文化財を公開・見学
宮本武蔵ゆかりの地を巡る

(2) 参加事業8事業について

①「第16回バレンタイン愛の美術展」

期日：10月25日(木)～11月11日(日)

会場：美作市立作東美術館

②「合唱コンクール&トークで綴る人権のひととき」

期日：11月2日(金)

会場：美作市立美作中学校

③「宮本武蔵生誕の地にみんなで泊まって学ぼうDay」

期日：11月3日(土)

会場：武蔵の里五輪坊

④「オルゴールコンサート・おもちゃパフォーマンス」

期日：11月2日(金)～6日(火)

会場：現代玩具博物館・オルゴール夢館

⑤「作東中学校 一日フリー参観日」

期日：11月2日(金)

会場：美作市立作東中学校

⑥「美作菊花展」

期日：10月29日(月)～11月15日(木)

会場：J A勝英本店前特設会場

⑦「美作市囲碁連盟設立記念交流大会」

期日：11月4日(日)

会場：武蔵の里交流館大ホール

⑧「岡山湯郷Belle エスコートキッズ募集と

選手サイン会」

期日：11月4日(日)

会場：美作ラグビー・サッカー場

(3) 協賛事業74事業

9月～12月までのフェスティバル協賛期間内に教育委員会をはじめ、各種生涯学習関連団体により74の協賛事業を開催いたしました。

(4) 無料シャトルバスの運行

11月4日(日)に開催した「美作市生涯学習まつり」において、会場と各総合支所を結ぶ5路線の無料シャトルバスを運行しました。

4 広報・啓発

(1) 屋外広告物

- ① 国体開催後の道路脇看板を再利用し、市内5カ所で18年度からフェスティバル開催告知
- ② 市役所本庁、各総合支所、事業開催会場に懸垂幕を設置

(2) 印刷物

- ① 「まなびピア豆知識」と題して、「広報みまさか」に毎月2年間に渡ってのPR活動を実施
- ② “まなびピア岡山2007 in 美作”全体事業告知ポスター、各事業単位の告知ポスター・チラシ、全3回の新聞折り込みの実施
- ③ 「広報みまさか」の配付とあわせて、市内全戸に事業チラシの折り込み配付
- ④ ガイドブック・リーフレットを学校・公共施設窓口、また、待合い室があるところには閲覧できるよう依頼し配布

(3) その他

- ① プレフェスティバル(平成18年10月22日)を作東バレンタインパークにて開催
- ② 美作市HPにて全国生涯学習フェスティバルをPRするとともに、各事業を紹介
- ③ のぼりやマスコット人形などを配置
- ④ 市民が集う会議やイベントなどに参加してのPR活動
- ⑤ マスコミ各社にイベント案内を送付

5 成果と課題

(1) 成果

大会開催期間中、連日の好天に恵まれ、大変多くの方々に各事業に参加していただくことができ、美作市の生涯学習振興に大きく寄与できたものと考えております。

また、このフェスティバル開催を契機に、旧町村単位で活動されていた方々がステージ出演を共に果たされたり、新たな活動組織を立ち上げられたりしたことは、美作市の生涯学習活性化を図るための今後の大きな推進力となるものと期待しているところです。

協賛期間を含め、総事業数88事業を開催することができ、様々な角度から「触れて・見て・感じる」生涯学習の機会を提供でき、多くの喜びの声をいただきました。

生涯学習への広がりや深まりを期待する声を、市民が発信し、その声を直接聞いたことは、こらからの社会教育行政を考えていくにあたってのヒントとなる大きな成果となりました。

(2) 課題

“まなびピア岡山2007 in 美作”を成功裏に導くため、実行委員会はもとより、多くの方々が手を取り合い、積み上げおこなってきました。その結果、多くの実りある成果を残すことができたといえます。今後このつながりをどう生かし、さらなる生涯学習の振興につなげていくかが、最も大きな課題といえます。

また、多くの市民が参加してくださったことは、事実ではありますが、あくまで生涯学習に興味・関心を持たれている方々が大半であり、どの程度新たな生涯学習への参加者を生みだすことができたのかという点に於いては、今後の分析と研究が必要であろうと考えています。

鏡野町

1 推進体制

鏡野町では、町長を会長として平成18年10月20日に鏡野町実行委員会を組織しました。委員構成は、町内の企業、住民組織、関係行政機関から選出し、官民協働での推進体制としました。

実行委員会においては、基本方針、事業計画、広報計画など、「まなびピア岡山2007inかがみの」の実施についての基本的な枠組みを決定しました。



実行委員会の開催

実行委員会の協議内容

第1回会議 平成18年10月20日

- ・ 実行委員会の設立
- ・ 基本方針の決定

第2回会議 平成19年3月1日

- ・ 鏡野町主催事業の概要について
- ・ 生涯学習見本市、広報活動について

第3回会議 平成19年7月6日

- ・ 鏡野町主催事業の決定

第4回会議 平成20年2月15日

- ・ まとめと今後の生涯学習の振興について

2 基本方針

本町の社会教育、生涯学習の特色としては公民館活動が活発であり、町内13の公民館が学習、交流の拠点施設として機能していることが上げられます。

したがって、今までの公民館活動を大切にしながら、町内外へ発信できる事業展開を行うこととしました。

また、町の産業や観光との連携を図る取組みも推進することとし、次のとおり基本方針を設定しました。

- ①過去の社会教育・生涯学習の成果を再認識し、誰もが参加、交流、体験でき、学びを身近に感じる取組みとする。
- ②町内の自然や文化、産業及び人的、物的教育資源の特色を生かした、官民協働の取組みとする。

これらの基本方針に基づき、各種の事業を展開することで、更なる町民の生涯学習の参加、参画を推進し、人づくり、まちづくりに寄与する大会とすることを確認し

ました。

また、大規模なイベント型の新規事業を開催するのではなく、地域の住民が手作りで実施することを大切し、無理なく、継続可能な事業展開を図ることとしました。

3 企画運営・事業展開

鏡野町主催事業としては、毎年この時期に開催している事業をベースに、実行委員会を構成している組織や団体、行政機関から事業提案を受け、主催事業として15事業を決定しました。

そして、事業の企画、運営については、事業提案をした組織、団体等が中心となり、連携・連絡調整を図りながら行いました。

①主催事業の概要

「まなびピア岡山2007 in かがみの」は、10月27日からの鏡野町文化協会「文化祭」をオープニング行事とし、コーラスグループによる「キラリ☆笑顔で」の合唱により開幕しました。

そして、開催期間中は、天候にも恵まれ、各事業とも盛況に開催することができました。

スポーツ関係の事業では、体育指導委員会及び体育協会が中心となり、町民のためのソフトバレーボール大会やラージボールによるピンポン大会等を2日間にわたり開催しました。特に、ニュースポーツ体験広場として開催した「ふれあいディスコン大会」は、体育指導委員会が地区公民館で開催している健康作り教室で取り上げている内容を町内全体へ呼びかけて実施しました。

企画展、作品展等の事業としては、地区公民館で開催されている作品展、文化展をはじめ、特別展として「ダムに沈んだ遺跡調査発掘成果展」や「奥津なつかしの写真展」「鏡野の植物展」を開催しました。

特別展の会場としては、文化施設だけでなく観光施設を活用したり、スタンプラリー会場として位置づけるなど、より多くの方に見ていただけるよう配慮し、3事業で千人（5日間）を越える来場者がありました。

このほか、町内の子育て支援ボランティアグループが中心となって企画、運営した「ちびっ子広場」(中央公民館)や「まなびピアだよ！お楽しみ会」(図書館)などの親子で参加する事業や60歳以上を対象とした「シニアスクール体験入学会」(奥津中



町内太鼓グループ交流発表会

学校)も開催しました。

また、「越畑ふるさと村・秋の紅葉まつり」や「奥津温泉もみじ祭り」では、丸太切り大会やあまご釣り大会、苦田ダム堰堤と同じ長さの巻寿司づくりなどの交流体験事業や同じ会場で町内の太鼓グループの交流発表会を実施し、観光や産業と連携した事業も実施することができました。

そして、最後のイベントとしては、町内外のコーラスグループの交流によるテーマソングの合唱を、観光施設「みずの郷奥津湖」で開催しました。北風の吹く寒い天候の中、それぞれのグループの持ち歌を披露し、合同でテーマソングを合唱しました。

これは、県の依頼により総合閉会式でのエンディングに合わせて実施したもので、合唱の様子は閉会式会場へ生中継されました。



みんなで歌おう「笑顔で☆キラリ」

②生涯学習見本市について

県主会場生涯学習見本市へは、町内企業との連携により2ブースを出展しました。

内容としては、町の観光や公民館活動の紹介パネル、チェーンソーアートの作品展示、企業からは里山再生事業の苗木の展示やミツバチの巣箱を設置し、多くの来場者に恵まれました。また、どんぐりをポットに植えて持ち帰ってもらう企画は小さい子どもたちには好評でした。

4 広報啓発

広報活動としては、町の広報紙、鏡野町有線テレビを基本メディアとして位置づけた広報活動を展開しました。

広報「かがみの」には、3回にわたり関係記事を掲載しました。

6月号 まなびピアとは！

8月号 鏡野町主催事業の概要

10月号 鏡野町開催プログラムの掲載

特に10月号では、中開の4ページにわたってプログラムを掲載し、切り離して活用できるようにしました。

鏡野町有線テレビにおいては、県主催事業「まなびピアの旅 スタンプラリー」の啓発と合わせて、鏡野町主催事業の概要を番組として放送しました。

そして、開催期間中は県主会場のステージ発表の様子を町内2施設で生放送するとともに有線テレビ視聴契約

家庭へ映像を配信しました。

その他、中央公民館、総合文化施設においては、啓発パネルを設置し、継続的な広報



プレ見本市 啓発掲示板

活動を展開するとともに、10月20日から2週間にわたり、生涯学習プレ見本市を総合文化施設ギャラリーにおいて開催しました。

5 成果と課題

「まなびピア岡山2007 in かがみの」の取組みを振り返り、本町の取組みが生涯学習の理念や趣旨を明確にした事業展開ができたか、また、どれだけの町民が生涯学習を身近に感じ、新たなライフスタイルを展開するきっかけとなったかについては疑問に感じています。

しかしながら、限られた期間のなかで町内のさまざまな人的、物的教育資源を活用した事業を展開し、各事業ともに盛況に実施できたことは大きな成果でした。また、日ごろから活動を展開しているグループや団体が積極的に事業を企画、運営し、町民主体で開催できたことや町内の企業との連携は、今後につながる成果でした。

これらのことを通して、単に学びや交流の場や機会を提供だけでなく、その企画、運営へ参画する機会を提供することや協働での取組みの大切さを改めて実感しました。

さらに、観光、産業や有線テレビの活用など行政組織間の連携による相乗効果も感じることができました。特に、鏡野町有線テレビは、広報活動にとどまることなく、主会場の発表を映像配信したり、生中継を実施したりと、生涯学習への関心意欲を高めるための取組みを展開し、今後の生涯学習、社会教育の推進にとって有効なメディアであると感じられました。

このような成果をふまえ、今後も、町民自らが地域活動へ積極的に参加、参画しようとする関心意欲を高めるとともに、その実践のための場や機会を確保することを通して、生涯学習による人づくり、まちづくりを展開していきたいと思えます。



鏡野町からの生中継の一場面